

小田原市青少年問題協議会 会議録

- 1 日 時 平成24年7月4日（水） 午後1時30分～3時00分
- 2 場 所 小田原市役所 議会全員協議会室
- 3 出席者
 - (1) 委 員 加藤憲一（会長）、橋本輝夫（副会長）、秋元喜代志、内田賢治、大川裕、大川良則、大嶽真康、大場得道、小澤治枝、加藤哲三、川瀬貴美子、木村貞雄、田中誠、土田寛仁、増田清隆、楊隆子
 - (2) 事務局 日比谷子ども青少年部長、篠原子ども青少年部副部長、福野青少年課長、尾沢青少年課副課長、浅野相談係長、宮川育成係長、脇主査
- 4 議 事
 - (1) 小田原市青少年問題協議会について
 - (2) 平成24年度青少年関係事業について
 - (3) 勉強会について
 - (4) 意見交換
 - (5) その他
- 5 会議の概要

(1) 小田原市青少年問題協議会について

(事務局)	資料1を使い、小田原市青少年問題協議会の概要について説明。 (質問・意見なし)
-------	--

(2) 平成24年度青少年関係事業について

(事務局)	資料2「平成24年度青少年関係事業」について説明。 <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; border-top: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black; padding: 5px;">青少年団体育成事業 / 子どもの見守り拠点づくり事業 / 放課後児童クラブ事業 / 地域の子ども活動情報発信事業 / 青少年と育成者のつどい / 指導者養成研修講座「おだわ ら自然楽校」 / 指導者派遣事業 / 地域・世代を超えた体験 学習事業「あれこれ体験 in 片浦」 / 地域体験学習事業 / 「チャレンジ・アンド・トライ」</div>
委 員	放課後児童クラブが市内24校で32クラブ開設されているとのことだが、1校あたり複数のクラブをもつ所を含めた32クラブの内訳はどのようなになっているのか。

事務局	24の小学校のうち8校の学校につきましては2つクラブが存在する。クラブを2つに分ける基準としては、クラブ規模の適正化という事で入所児童数の多いクラブについては、分割して小規模化しなさいという国からの基準をもとに定員70名を超える8校については児童クラブを2クラブに分割しており、計32クラブとなる。
委員	そうすると1校に2つのクラブ室があるということによろしいか。
事務局	もともと1つのクラブ室で運営していたものを、学校の空き教室等をもう一つお借りして進めている。
委員	放課後児童クラブ運営委員会における委託金の処理方法について、柔軟性をもった対応をお願いしたい。
事務局	児童クラブの委託金の取り扱いについては、必ずしもご要望にお応えできないこともあるが、地域の皆様と話し合いながら、法に則った最善の方法を見つけ出していければと考えている。

(3) 勉強会について

議長	ご意見も尽きたようなので、平成24年度青少年関係事業については委員の皆様には様々ご支援いただくこともあるかと思うが、よろしくをお願いしたい。それでは次に議題(3)勉強会について進めていきたい。青少年問題協議会の勉強会については昨年度まで橋本副会長を中心に進めていただいたので、今までの経緯を含めて橋本副会長からご説明をいただきたい。 (橋本副会長から趣旨説明)
議長	勉強会について過去2年間の様子についてお分かりいただけたかと思う。勉強会の是非を問うわけだが、今回委嘱された委員さんにご判断に悩む部分があるかもしれない。私自身、2年間で計4回の勉強会に極力参加し、様々議論を尽くしてきた。限られた時間の中で青少年を取り巻く状況やそれぞれの活動分野が異なる方々の議論によって、お互いのギャップを埋め合わせることができたと感じており、そういう意味で勉強会は有意義なものであると考えている。昨年度までの勉強会は青少年の地域貢献というテーマで継続して議論をしていきたいとい

うところで終了している。任意の勉強会を実施していくことについてご意見があればお願いしたい。

委員 大変いいことだと思う。それぞれ違う立場で青少年問題に取り組んでいるので、勉強会ということでやっていただければ参加していきたい。

委員 県としても、不登校やいじめの問題、スクールカウンセラーなど様々な教育に関する取組みがあり、今後も情報交換をしていきたい。また、地域貢献をどのように進めていくかというテーマがでていますが、そういうテーマで意見交換することで、こういう地区があるんだ、こういう取り組みをしているんだとお互い知ることができ、それが政策などにも生きてくるのではないか。そういう意味からすれば、勉強会はいい機会ではないか。

(4) 意見交換

議長 他にご意見はありますか。

(意見なし)

議長 勉強会の是非については、できるだけ皆さんの意見を集約した形で決めていきたいと思うので、この後の意見交換で様々な議論をしていただいた上で、再度おはかりさせていただきたい。次に、議題(4)意見交換に移らせていただく。意見交換ということで、事前にお示しさせていただいたテーマ「子ども達を取り巻く環境の変化」で皆様のお考えや情報提供を含め、様々なご意見をいただきたいと思います。まず事務局よりテーマの趣旨説明をお願いしたい。

(事務局による趣旨説明)

議長 やや幅の広いテーマであるが、皆様から率直なご意見をいただきたいと思います。

委員 6月30日、東富水地区としてお年寄りから小学生くらいまでの幅広い層が参加し、ナイトウォークを行った。東富水はまだ田んぼがあるが、今の小学生は蛍を見たことがない。アリーナから開成町までの4.5キロを往復した。ナイトウォークをしながら蛍を見ようということ

で行った。当日は120名ほどが参加してくれて盛況だった。年配の方は中学生に二宮金次郎のことを見てきたかのように語るなどほほえましい場面もあった。泉中の校長先生が参加され、ともに3時間ほど汗を流した。何をしてやるではなく、お金のかからない、自分達が何かやろうという「場」がないから様々な問題がおこるのであって、そういう場所を提供してあげればよい。また、中学生が車椅子を押してあげる光景も見かけた。各地域でも様々取り組まれていると思うが、参考にしていただきたい。

議長 地域の中で子どもを抱え込めるような場をもてるかが大事な視点。小中学生が地域の人とふれあうことで、自然に積極的なマインドが生まれ、即行動に現れるのは素晴らしいことである。

委員 私は酒匂地域に住んでいる。今の子どもは携帯を使いこなし、ゲームなど遊びが様変わりしているところもあるけど、子ども達は子ども達で、友達と仲良くしたい、人に認められたい、成長したいという心は変わらず持っている。親についても、子どもを思う心は今も昔も変わらない。酒匂小学校で行われるふれあい市場では、おじいちゃんおばあちゃんが子どもに関わり、卒業した後も、学校のことが気になり、時折訪問してくる生徒もいる。中学校でも職業体験学習ということで地域の企業などで体験をするわけだが、勉強になると同時に郷土愛、地域を愛する心をはぐくむことができる。受入れ側も次はどうやって喜ばせてあげようかと考えてくれている。また海岸清掃や、地域の公園清掃など地域を愛する心が行動にあらわれていることを実感している。子どもが挨拶できているかではなく、大人から元気にあいさつをしていくことが大事。あいさつを笑顔でできることが円満な人間関係を築く上では大切なこと。

議長 我々が小学校の頃は、郷土愛を育むような取組み、プログラムはなかったように思う。そういう意味では今の方が取組みとしては進んでいるといえるかもしれない。次に小学校を取り巻く環境の変化ということではいかがか。

委員 子ども達を取り巻く環境の変化として3点あげたい。自宅が久野で勤務地が下曽我であるため、通勤途上に様々な学区の通学している姿を見る機会がある。どこの学区にも横断歩道に通学を見守るボランティアの方がいらっしゃる。自分が子どもの時はいなかったが、自分の子

どもがお世話になったこともあり、地域を見守るボランティアの方へ感謝の言葉を伝えることができた。2点目は、保護者が運動会に来るのは小学校までというイメージがあったが、今は中学校の運動会に相当数の保護者が応援に来ている状況がある。それだけ親の関心が高まっていることなのか。保護者が色んな形で子どもを見守るようになったことを感じる。3点目は、授業が終わった後の子ども達について、1週間のスケジュールがびっしり詰まっている子とまったく予定がない子との2極化がある。毎日のようにスポーツクラブや、習い事や塾に通う子どもがいる一方で、全然外遊びもせず、無為に過ごす子ども達がいる。それは学力の二極化につながることであり、本校にも当てはまることだと認識している。

委員

行政として青少年育成を進めていく場合、どうしても小中に対しての比重が重くなる。小田原のまち全体を考えたときに、高校生もいれば大学生もいる。具体的に何ができるかというのは分からないが、そういう視点が必要ではないか。高校や大学も地域貢献を考えて取り組んではいるが、単発的で点となってしまっている。県西地域の小中学生のほとんどは、県西地域の高校へ進んでいる。そう考えれば、「小中高大」までを1つの青少年行政として一体的にとらえていくことが大切ではないか。横浜の小中高一貫教育校に赴任していた時に、小学校から1つの要望があった。その要望は高校生にボランティアとして学童クラブに来てくれないかという事だった。高校生が小学生に算数を教えるという行為は、実は「失われたものを取り戻す、補完する」という要素があって、少子化で兄弟としての触れ合いが希薄な中、高校生は小学生からお兄さん、お姉さんとして頼りにされる。すると、下手なことはできないと思い、そこに責任感が芽生える。また高校で行っているインターンシップで目に見えて効果が感じられたのは保育園での体験だった。こうした体験を何かに生かせればと思う。

議長

体験インターンシップ的な取組みで中高生が目の色を変えるという話だった。小田原市内でも城北中学校の生徒が桜井保育園の園児を背負って逃げる訓練を行っていると聞いている。普段どこか頼りなく感じていた中学生が頼もしく思えた場面だった。地元で育った人間が地元で活躍し、地元に戻元していくという流れからするととても頼もしい取組みであると感じる。

- 委員 金環日食の話になるが、実は西湘高校の生徒が富士見小学校の生徒のために日食グラスを相当数作ってくれたということが広報誌に掲載されていた。とてもいい取り組みだと思う。
- 委員 先日、高校生の孫が小学生に日食グラスを作ってあげたことで、とても喜んでくれたと嬉しそうに報告してくれた。私自身嬉しくもあり、ほほえましく感じた。
- 委員 今年の夏、小学生を対象にした地域少年リーダー養成講座を2泊3日で実施することになっている。そこで中高生で構成されている青少年団体のジュニアリーダーズクラブに、参加者の面倒など様々な協力をしてもらうことになっている。我々、青少年育成推進員はなるべく手をださず、見守りながら進めている。また、何年か前の話になるが、岸和田市の交流事業に参加したことがある。岸和田はだんじり祭りが有名だが、地域内の老若男女が一体となって祭りという一つのことに取り組んでいる。こういう地域での連帯する姿をみているといいものだと感じた。
- 議長 各委員から様々意見交換をしていただいたが、皆様からのご意見を今後の青少年施策に役立てていければと考えている。その他に何か情報提供、情報発信したいことがあればお願いしたい。
- 委員 6月22日に私の学校で津波の訓練を行った。海から近い場所にあるので、校舎の3、4階に避難するわけだが、訓練は我が校の生徒だけでなく、白鷗中学や自治会の方なども参加をしていただいた。震災の対応を考えた場合、自分の学校のことだけでなく、中学校や地域の方、または通行人も含め、全て避難者になる可能性がある。青少年育成においても同じように小中高大一体という考えを持っていただければと願っている。
- 議長 皆様から前向きなご意見をいただき、青少年の取り巻く環境を実感するとともに、青少年の育成を地域の中に巻き込んでいく点でも多くの示唆を得たと感じている。先ほど保留とさせていただいた勉強会の実施についてだが、「地域貢献」という視点をもって青少年健全育成の取り組みについての意見交換ができればと考えているが、皆さまの了承が得られれば、今後も継続していきたいと思うがいかがか。

(賛同の意あり)

議 長

それでは皆様の賛同がえられたので、引き続き勉強会を行っていくこととしたい。議題（４）意見交換は以上とする。

(5) その他

議 長

議題（５）その他ということで事務局から連絡事項があれば、お願いしたい。

(事務局から事務連絡)

議 長

以上で青少年問題協議会を閉会とさせていただきます。本日は大変にお疲れ様でした。